

＼ 2021 年度 ローカル SDGs で四国を変える人材になる ／

ローカル SDGs



四国の創り手人材育成 プログラム研修報告書



2022年3月

四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)

Introduction

この研修は、四国の地域資源を活用し、ローカルSDGsの視点をもって、課題解決の方策を探り、事業を創り出し共に動かす人材、ココロザシを共に共有し実現に向けて歩む仲間づくりをめざして実施しました。

今年度のフィールドは、香川県と愛媛県。

「もったいないものを活用して何か事業にできないか?」、「四国の自然資源をエネルギーに変えられないか?」などのテーマで募集を行い、四国内外から思いを持った若手世代を中心に19名9チームが参加しました。参加者は、3カ月の研修期間中、課題把握の方法や事業化のための情報収集テクニックを知るとともに、「もったいないロス」や「再生可能エネルギー」をテーマに起業家や実践者から、思いをどう具現化したかやビジネスの仕組み、事業化に向けたプロセスを学びました。

その後、実践に向けての一步を踏み出すため、アイデアや思いを事業化シートへ落とし込み、専門家からアドバイスを得ながら、ブラッシュアップを行いました。その内容は、一般の方にも伝えるためにお題の形でまとめ、成果発表会で発表。広く賛同や応援を得ることができました。

この冊子は、本研修経過を報告としてとりまとめたものです。



研修案内チラシ





Schedule

2021年12月3日 人材育成プログラム協議会（第1回）

8日 事前説明会（第1回）

14日 事前説明会（第2回）

23日 事前ワークショップ

2022年1月8～9日 フィールドワーク「もったいないロス」

15日 フィールドワーク
「再生可能エネルギー」（1日目）
フィールドワークふりかえり会

20日 ブラッシュアップダイアログ（第1回）

27日 ブラッシュアップダイアログ（第2回）

29日 フィールドワーク
「再生可能エネルギー」（2日目）

2月11日 事業企画ワークショップ

17日 ブラッシュアップダイアログ（追加）

2月23日 成果発表会

3月2日 人材育成プログラム協議会（第2回）

※研修報告データ版URL

<https://4epo.jp/information/notice/24713.html>



事前ワークショップ

【日 時】 2021年12月23日 (木) 19:00～21:00

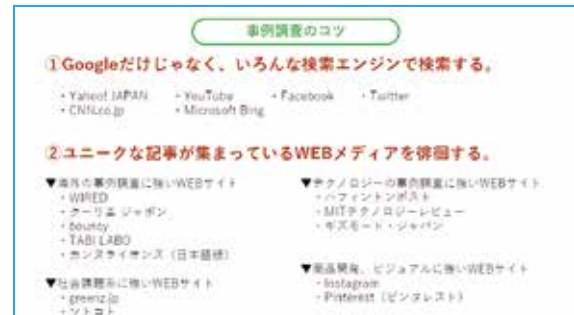
【場 所】 Setouchi-i-Base (香川県高松市)、オンライン (Zoom)

【講 師】 池嶋 亮氏 (プランナー/Setouchi-i-Base コーディネーター)

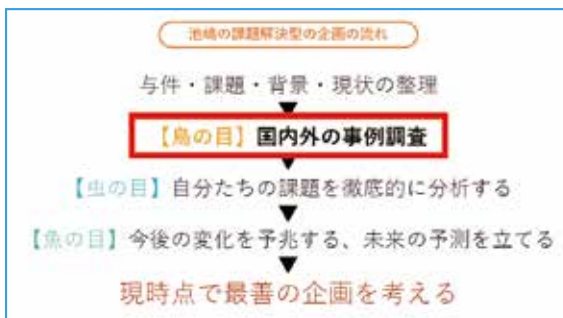
【内 容】 企画立案に当たって大切な3つのポイントや事例調査のコツ、課題解決に向けての心構えなどを学んだ。



企画を考える時には3つのポイントがあり、「鳥の目」は俯瞰して市場やマーケット全体を見ること、「虫の目」はユーザーの小さく細かい部分の分析、「魚の目」は世の中の大きな流れを読むといった視点が必要であることが分かった。



事例調査の際には、いろいろな検索エンジンで検索することが重要で、課題解決につながる情報収集や海外の情報収集の面白さが紹介された。いずれにしても新しい情報が自動的に入る状態を作り、自身の情報感度を常にアップデートさせることができることを知った。



課題の周辺状況の把握と整理を行った後は、まず「鳥の目」で国内外の事例を徹底的に調べることが重要で、その情報をベースに「虫の目」、「魚の目」と分析・予測を行い、現時点で最善の企画を考えるという流れを学んだ。



課題解決を考える時に大切なのは「正解」ではなく「最適解」を探すこと。今の社会課題は複雑で、正解を追い求めるだけで、何もしないのが一番良くない。最適解を見つけ出すために、想像力を働かせ、自分で動いて調べることの重要性を理解した。

池嶋氏提供研修資料より抜粋

研修参加者からは「知ることの大切さ、情報収集能力、情報へアクセスする力の大切さに気がついた。」や「大切なのは正解ではなく最適解であることに気づいた。」など好評いただきました。

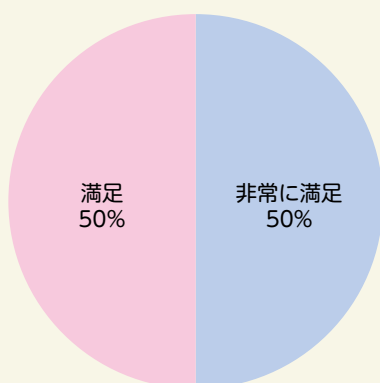


参加者記念撮影

参加者の気づき・感想 (一部抜粋)

アンケート結果

事前ワークショップの満足度 (回答数:14件)



- ・GoogleとFacebook以外でもたくさん情報を取る必要性を感じた。
- ・参加者の皆さんの意識が高い！
- ・知ることの大切さ、情報収集能力、情報へアクセスする力の大切さに気がついた。知っている情報を信じるのではなく、探求、追求し、あらゆる事例を調べ尽くすことが課題解決への近道であり、新しいことを生み出すきっかけになると思った。
- ・オンライン情報リソースの使い方が分かりやすく、良かった。
- ・調べることの重要さ、そこからの気づきを大切にしたい。
- ・検索エンジンごとに違う検索結果が得られ、日常業務での選択肢を増やし偏らない情報収集について気づきがあった。
- ・大切なのは正解ではなく最適解
- ・問題解決のヒントを得るためにいろんな検索エンジンを使うことも手段の一つである。
- ・SDGs理解にとどまらない、各種の有用な検索URLや経験から編み出されたりサーチ手法とその勘どころを得た。
- ・池嶋さんのユーモアに溢れ、エッジの効いたセンスはとても真似できない。場を盛り上げる雰囲気づくりと無料受講でここまでの情報やテクニックを提供いただき、初回から大満足だった。
- ・情報収集の方法、そして、そこから何をピックアップしていくかを学ぶことができた。常に敏感に情報を集める姿勢が大切なのだと感じた。
- ・Twitter, Facebookも検索ツールとなり得る事、その理由も納得した。
- ・地域ごとで新しい取組がされていることを知り、新しいことをしたいと思った。

フィールドワーク「もったいないロス」1日目

【日 時】 2022年1月8日（土）10:00～16:00

【場 所】 さぬき麺業(株)、(株)ちよだ製作所（香川県高松市）、オンライン（Zoom）

【講 師】 久米 紳介氏（うどんまるごと循環コンソーシアム事務局長）

香川 政明氏（さぬき麺業(株)代表取締役）

尾寄 哲夫氏（(株)ちよだ製作所技術開発営業）

【内 容】 廃棄うどんから始まるうどんまるごと循環フローを現場見学を通して学んだ。



さぬき麺業での集合写真



ちよだ製作所での集合写真



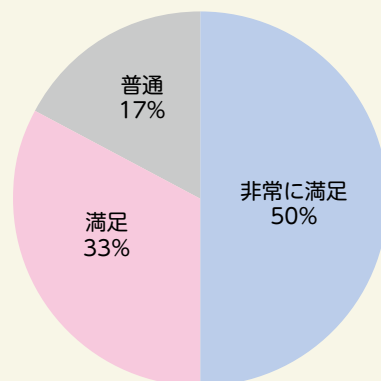
うどんまるごと循環コンソーシアム提供研修資料より抜粋

うどんが廃棄されている現状を知り、その課題解決のため、産学官民の緩やかなコンソーシアムを立ち上げる。うどんからうどんへ再生させるといったコンセプトの元で、廃棄されたうどん（普通の食品残さを含む）をプラントでメタン発酵し、売電、残った液体を肥料化して小麦を栽培、エコツアーや環境教育と連動させながらモデル事業を展開している。



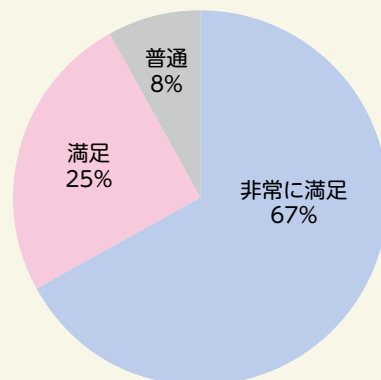
さぬき麺業・香川社長からの講義の様子

さぬき麺業
(回答数:12件)



ちよだ製作所・尾寄氏からの説明の様子

ちよだ製作所
(回答数:12件)



フィールドワークでの
気づき・感想
(一部抜粋)

- ・うどんのフードロスの量2万食/日に驚いた。そしてその価値を廃棄していたという事実にも驚きを覚えた。
- ・地域と取り組み、企業・行政を巻き込み取組。その一環でSDGsが含まれているという事を感じました。
- ・設備の有効性は分かっているのに投資できていないなら、ファイナンスに詳しい人材が必要と感じた。
- ・ちよだ製作所では教育の観点からの説明があり、SDGsファシリテーターを育成すると良いと思った。
- ・「うどんは安い!」というのが私たちの常識だが、香川の伝統を守るという観点から、エコ活動は持続可能ではないと感じた。
- ・ちよだ製作所のお話から、子どもへの環境教育は欠かせないセットにして考える必要がある。
- ・それぞれのプロジェクトに関わる方の熱意の高さが印

象的でした。

- ・熱意、信念を持つこと、パートナーシップの必要性
- ・全ての事業において、周りのひとや団体とのパートナーシップ、友好的であることが成功の条件ではないかと思いました。
- ・それぞれ違った学びがあった。まだまだ知らないことが多いと感じた。
- ・いろいろな人と連携し、新しい事業が生まれれば良いと感じた。

フィールドワーク「もったいないロス」2日目

【日 時】 2022年1月9日 (日) 10:40～15:30

【場 所】 (公社) セカンドハンド松縄店、学生服リユースShopさくらや高松店 (香川県高松市)、
オンライン (Zoom)

【講 師】 石井 花氏・川内 衣梨絵氏 (公社) セカンドハンド事務局
馬場 加奈子氏 (学生服リユースShopさくらや創業者・オーナー)

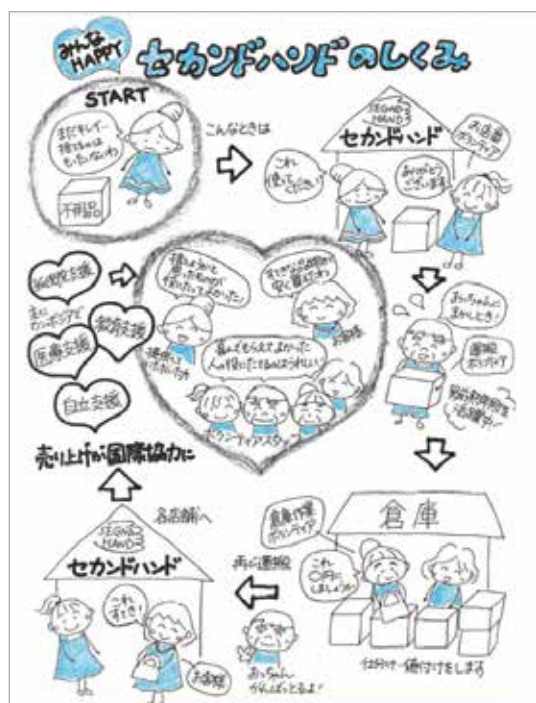
【内 容】 (公社) セカンドハンド、学生服リユースshopさくらやを見学し、チャリティショップや制服リユースの取り組みを学んだ。



セカンドハンド松縄店での集合写真



さくらや高松店での集合写真



セカンドハンド提供研修資料より抜粋

チャリティショップの仕組みを学んだ。まだ使える衣類や雑貨が、店頭を持ち込みされると、ボランティアがその仕分けや値付けをして、店舗で販売される。お客さんが購入すると、その売り上げは国際協力につながるという仕組みで運用されていることを把握した。



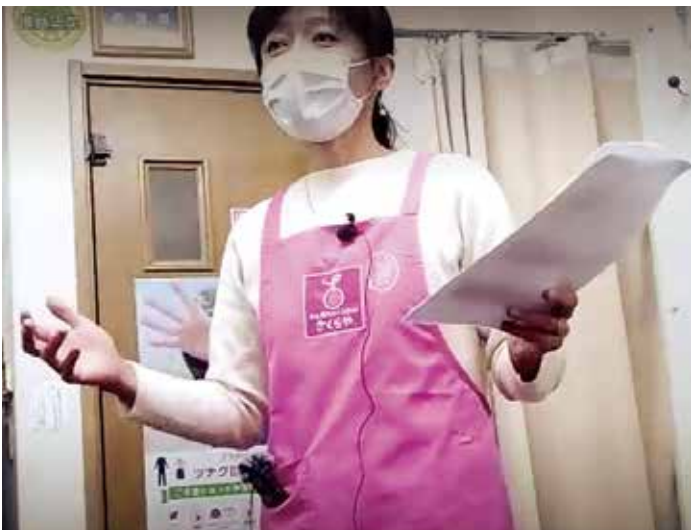
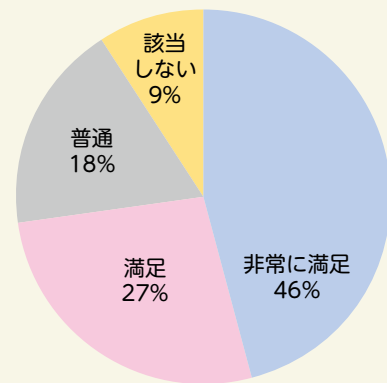
さくらや提供研修資料より抜粋

「学生服でお母さんたちを助ける」という思いを持って起業された事業。現在は、制服の買い取りから補修、販売、地域活動の4つの柱で事業を回し、全国パートナーへの展開と連携を進めている。



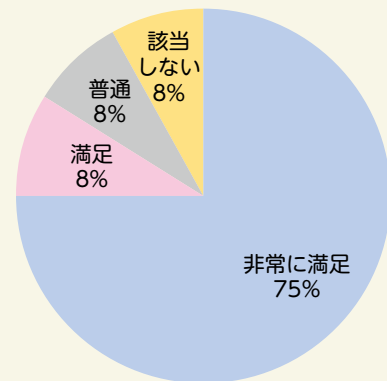
セカンドハンドでの説明の様子

セカンドハンド (回答数:12件)



さくらやでの説明の様子

さくらや (回答数:12件)



フィールドワークでの 気づき・感想 (一部抜粋)

- ・事業を立ち上げる人はそれにかける思いが強く、熱量が非常に高いことを改めて実感した。
- ・ブランディングを意識する事は大事。ブログも毎日続けることが大事。スモールスタートし、PDCAサイクルを回す事で成功につながる好例だと思いました。
- ・「ソーシャルビジネスのエッセンス」が良く理解できた。
- ・講師のお話はとても面白かった！講師のパワフルさに圧倒され、熱い思いを持って活動されていると思った。
- ・事業化するには、自分がやりたいと思えることをやるべきであり、それが熱意となっていくと感じた。
- ・異業種の方々との視察は、自分にはない視点や考え方に触れることが刺激になりました。
- ・2日目のイベントは女性起業家ということもあり、大変興味深かったです。女性起業家というイベントもしてほしいです。
- ・非常に面白い企画でした！！ハイブリッドでしたが、現

場においてのリアル感ライブ感があると、段違いに気づきが多く、素晴らしいと感じました。

- ・現地で参加できなかったのが非常に悔やまれるぐらい素晴らしい機会をありがとうございました。明日から実践すべき事も学ぶとして得られました。
- ・大変学びが多い2日間でした。今後、自分の事業計画にどのように活かしていけるか考えていきたいと思います。
- ・実際にもったいないロスへ取り組んでいる事業の方々のお話を直接聞くことができ、何か自分たちでできることはないかと考えるきっかけとなり、大変良かった。
- ・いろいろな人とこれからもつながりを大事にしたい。

フィールドワーク「再生可能エネルギー」 1日目

【日 時】 2022年1月15日(土) 9:00～17:00

【場 所】 伊予市立翠小学校周辺(愛媛県伊予市)、オンライン(Zoom)

【講 師】 入岡 利成氏(一社)小水力開発支援協会監事)

内藤 昌典氏(有)内藤鋼業代表取締役)

【内 容】 小水力発電、木質バイオマス発電の現場を見学し、自然エネルギー活用を考え方を学んだ。

■小水力発電(前半)



小水力発電についての説明の様子



流量と流速の測り方説明の様子

■木質バイオマス発電(後半)



内子バイオマス発電所の紹介



内子町バイオマス発電所の電力配送電の状況

小水力発電とは

法律で異なる「小水力」の定義

- ・FITでは出力3万kW未満が買い取り対象
- ・世界的には1万kW未満を対象とするケースが多い
- ・日本の政策では1000kW未満を指す場合が多い

ここでは出力1000kW未満を「小水力発電」と定義します。

小水力発電のエネルギー

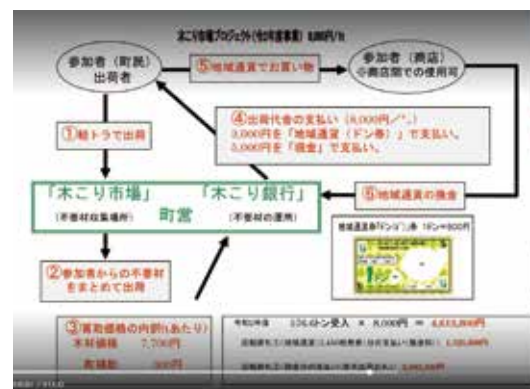
- ・得られるエネルギーは、水の量(流量)と落差で決まる
→位置エネルギーを電気エネルギーに変換
- ・理論的な出力は次の式で求められる

$$\text{出力(kW)} = \text{流量(m}^3/\text{秒)} \times \text{落差(m)} \times 9.8 \times (\text{効率})$$

「小水力発電基礎講座」全国小水力107/7/29右版氏資料より引用

入岡氏提供研修資料より抜粋

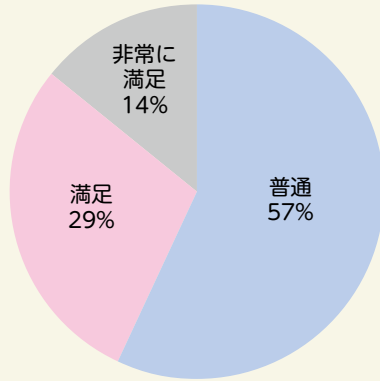
発電方式の分類では、「流れ込み式」、または「水路式」となり、一般河川、農業用水、砂防ダム、上下水道など、現在無駄に捨てられているエネルギーを有効利用できることを学んだ。



内藤氏提供研修資料より抜粋

現在、内子町では木こり市場プロジェクトが運用されており、地域通貨券を活用し、木質バイオマスを中心とした地域循環の仕組みがあることを学んだ。

フィールドワークの満足度
(回答数:7件)



参加者記念撮影

参加者の気づき・感想 (一部抜粋)

- ・今まで気にせず素通りしていたコンクリートの川壁に、意味や効果があり、地域を支えているシステムになっていることが分かった。川縁を歩く時の見方が変わった。
- ・小水力発電の現場での話がすごく興味深かった。
- ・小水力は、水の道を調べ、実際に使えるか確認していることを聞き、地道な作業が必要という驚きがあった。
- ・小水力発電候補地の調査では、地域と連動する必要があったり、昔（江戸時代）の地図を元に調査する必要がある、大変だなと感じた。
- ・投機を投資に結び付けるためには正確な資料を基に机上で検討しリスクを減らし、いくつも種を蒔いてパラで進めていく必要がありそう。
- ・伊予市内河川では、これまで気にしたことがなかった河川や用水路の見方をすることができてとても面白かった。
- ・木質バイオマスでは、地域のお困りごとをどのようにしたら解決できるか。自分の中だけで解決する必要はなく、協力することでネットワークができ、大きな力になることを知り、地域に還元、循環させていくことで長く続くことを学んだ。
- ・バイオマスは、メインのバイオマスの活動だけでなく、

そこから幅広く派生させ、行動に起こしているところ、一つ完了しても次のステップにつなげる行動をしていくことが継続につながっているのだろうなと感じた。

- ・内子バイオマスは、持続可能な再生可能エネルギーと地域活性化が繋がっていることを知り、周りをうまく巻き込んでいく仕組みづくりが大切だと気づきました。
- ・木質バイオマス発電は町全体で再生可能エネルギーに取り組んでおり、未利用木材や木の皮・灰まであらゆるものを再利用しようとした試みがここまで事業化しているのはすごいと感じた。
- ・内子バイオマス発電所では、地域の山の状態の改善、内子町地域を持続可能な町にする取組として行っていること、またそれらを大きな利益よりも町の住民や事業者など全ての人たちに小さくても利益が発生する仕組みにしていることが印象的だった。
- ・伊予市も内子町も、地域に熱意のある方がいることが印象に残った。
- ・地域に根づかせるためには、地域の自然と人の両方との協働が必要と感じた。
- ・パートナーシップの重要性

フィールドワーク「再生可能エネルギー」 2日目

【日 時】 2022年1月29日（土）10:00～12:00

【場 所】 えひめ住販モデルハウス（愛媛県松山市）、オンライン（Zoom）

【講 師】 滝口 貴士氏（えひめ住販㈱代表取締役）

【内 容】 太陽光発電・最新モデルハウスを見学し、太陽光や熱がどのように利用されているかを学んだ。



参加者記念撮影



蓄電池についての説明の様子



滝口氏提供研修資料より抜粋

モデルハウスを見学しながら、太陽光や熱を取り込み、逃がさないための窓や空調の工夫があることを知った。ソーラーパネルで発電した電気は蓄電池や電気自動車に蓄電するなど、電力自給や社員満足向上につながるアイデアを紹介いただいた。

参加者の気づき・感想 (一部抜粋)

- ・家を畑と考える発想がなかったので、新鮮さを感じた。また、家の温かさを感じるためには窓を2重にする等、いろいろな取組があることを知れてよかった。
- ・ソーラーパネル以外にも、家の造り、素材などの工夫で省エネされ、環境にいい家ができることが分かった。
- ・住宅販売業界が、御社のようになる日は遠くないと思った。熱心に取り組まれる姿が素敵でした。
- ・太陽光の活用や省エネ、蓄電に関することを学んだ。
- ・自家消費の考え方が参考になった。
- ・実際のモデルハウスを見学でき、良かった。

フィールドワークふりかえり会

【日 時】 2022年1月15日（土）18:00～20:00

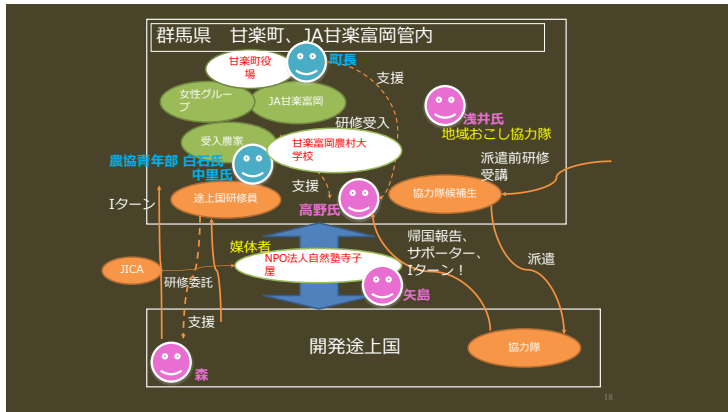
【場 所】 オンライン（Zoom）

【講 師】 矢島 亮一氏（（特非）自然塾寺子屋理事長）

【内 容】 フィールドワークでの気づきを参加者間で共有後、
「国際協力事業と連携した日本の地域づくり」を
テーマに地域で取り組むためのアイデアを得た。



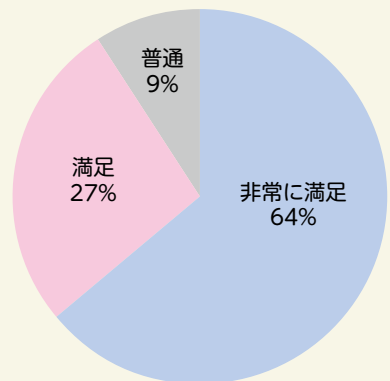
矢島氏による講演の様子



国際協力と連携した地域づくりに関する説明資料
矢島氏提供研修資料より抜粋

青年海外協力隊に参加し、帰国後、群馬県甘楽町でNPOを立ち上げ、多文化共生や地域活性化に向けたさまざまな取り組みを展開する講師から、実践に関する話題提供をいただいた。多様な主体と連携しつつ、地域の経験を再価値化するとともに、世界を視野に入れた農村文化を学びあう場の創造など、新たな知見を得た。

フィールドワークふりかえりの満足度
（回答数:11件）



参加者の気づき・感想 （一部抜粋）

- ・何かを実施する際は、地元の人など周りを巻きこむことが大切と分かった。
- ・継続的に活動している方の話を聞き、勇気づけられた。私自身も活動の一步を踏み出していきたい。
- ・地元の人同士もしくは地元の人とよその人を結び付けることがキーになりそう。
- ・各参加者がそれぞれで感じたことを共有する場になって良かった。同じ想いを持つ人、自分になかった考えを知ることができて良かった。
- ・他の方の意見を聞き、考え方や活かし方を自分なりのものとして考えていきたい。
- ・参加者のアントレプレナー精神を感じた。サーキュラーマインドでビジネス化へ向かう気概がとても素敵で、心から共感した。
- ・ESD発ベンチャーの成功事例ができると…面白い！これこそ四国の潮目が変わりそう。
- ・ふりかえりでは、参加者の気づきを聴くことができたが、もう一歩形にしていけるエンジンが欲しい。それが何か分からず、起業することは難しいで終わってしまう。
- ・目の前にあるもの、途上国や田舎にしかないものがあるとすると、それは大変な強みではないか。それを発掘していきたい。
- ・SDGsや地球環境への関心が広まってきた中で、コスパだけではなく、社会を良くしようとする信念が、今後のプロジェクトでは重要となってくる。

ブラッシュアップダイアログ（第1回・第2回）

【日 時】 2022年1月20日（木）19:00～20:00、27日（木）19:00～21:00

【場 所】 オンライン（Zoom）

【内 容】 参加者の企画事業内容について、参加者間で質疑応答含む意見交換を行った。



参加者記念撮影

追加のブラッシュアップダイアログ

【日 時】 2022年2月17日（木）19:00～21:00

【場 所】 オンライン（Zoom）

【内 容】 成果発表会で発表する資料やお題について、意見交換し、アドバイスをを行った。



参加者記念撮影

事業企画ワークショップ

【日 時】 2022年2月11日（金）13:00～16:15

【場 所】 オンライン（Zoom）

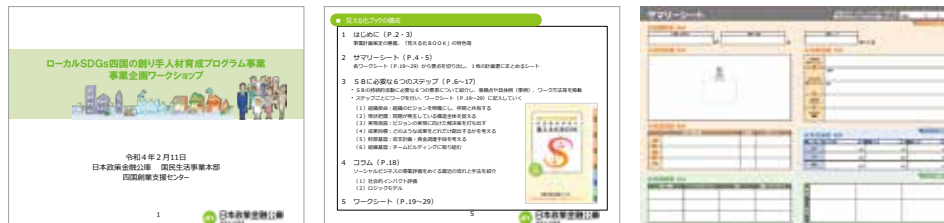
【講 師】 岡本 輝之氏（日本政策金融公庫国民生活事業本部四国創業支援センター所長）

【内 容】 「ビジネスプラン見える化BOOK」を軸としたインプットや研修者の事業企画案の発表の後、アドバイザーと一緒に企画のブラッシュアップを行った。

【スケジュール】

13:00 開会

13:05 日本政策金融公庫による講演



岡本氏提供研修資料より抜粋

「ビジネスプラン見える化Book」のサマリーシートにはどのような内容を盛り込めばよいか、ポイントを交えながら、お話をいただいた。

14:15 各チームの取組内容を発表

14:45 各チームに分かれアドバイザーを含めた意見交換・ブラッシュアップ



各チームが取り組もうとしている内容を発表いただいた後、チームに分かれアドバイザーの意見を聞きながら、シートに落とし込む作業に挑戦した。

15:35 気づき・感想の共有とアドバイザーからの講評



15:50 次回に向けての準備・説明

今回はBeyondミーティングでの発表！限られた時間で、取り組みを整理発表し、一般の方から共感やアドバイス・応援を得るためにはどうすればよいか、教えていただいた。

16:10 今後のお知らせ

16:15 閉会

参加者の気づき・感想 (一部抜粋)

- ・ブレイクアウトルームで話せて良かった。
- ・連携していくためには、声をかける先と一歩踏み出す勇気が大切だと感じた。
- ・オンライン上で意見交換をする難しさはあり、もっとお互いの情報を出しあうことができればと感じる。
- ・ブレイクアウトルームで、当事者以外の方の意見を聞くことの面白さに気づいた。
- ・新たな視点や考えを得ることができた。発表に向けて、今回の意見を参考にまとめたい。

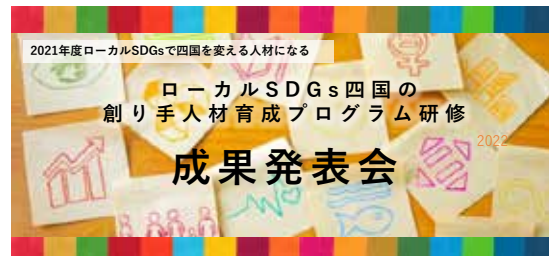
成果発表会

【日 時】 2022年2月23日（水） 13:00～16:00（～16:30）

【場 所】 オンライン（Zoom）

【参加者】 一般含む42名

【内 容】 ETIC.の協力で、Beyondミーティングを実施した。研修参加者からは、事業企画とお題が発表され、参加者を巻き込んだアイデア出し、仲間づくりを行った。



【プログラム】

13:00 挨拶 中国四国地方環境事務所 四国事務所



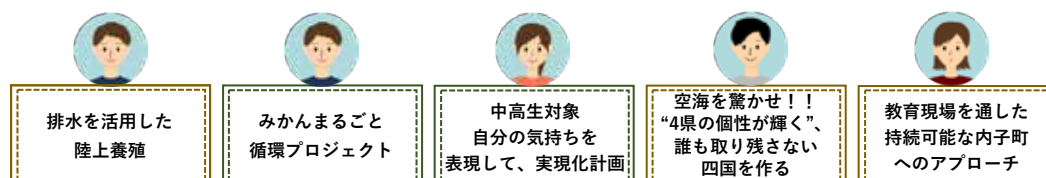
常富所長より事業趣旨を含めた挨拶をいただいた。

13:05 お作法説明、オリエンテーション



ETIC.の米田氏よりBeyondミーティングの説明をいただいた。

13:35 事業企画発表 ①（3分×5チーム）



13:50 参加者希望ルームの入力、休憩

13:55 ブレストの楽しみ方



14:00 ブレスト作戦会議 ①（前半発表チームの事業企画について活性化のアイデアを出し尽くそう!）



14:35 事業企画発表② (3分×4チーム)



14:50 参加者希望ルーム入力、休憩

14:55 プレスト作戦会議② (後半発表チームの事業企画をテーマに活性化のアイデアを出し尽くそう!)



15:25 応援タイム、つながりタイム

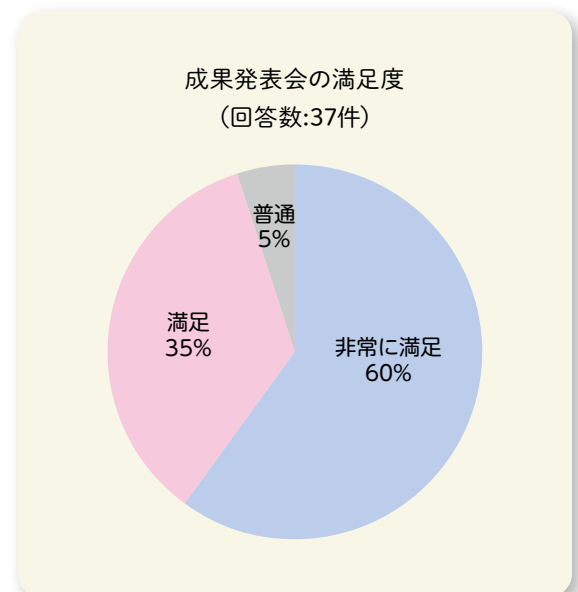
15:40 講評

アドバイザーの3名よりそれぞれの専門的見地から発表者への応援コメントや取り組み推進につながるアイデアをいただいた。

15:50 LS四国からのお知らせ、クロージング、集合写真



参加者記念撮影



16:05-16:30 放課後タイム (※任意参加)

参加者の気づき・感想
(一部抜粋)

- ・皆さんの企画が参考になりました!
- ・どの取組も本当に感動致しました。これからも応援します。
- ・ブレイクアウトルームでのプレストはとても充実してました。皆が参加できるところが良い。
- ・いろいろな立場の方から話が聞けて良かった。
- ・様々な意見が聞けて楽しかった。参加したプレスト以外のプロジェクトもっと詳しく聞きたかった。
- ・様々な取組について、自分事できるような工夫がありました。
- ・学生では普通得られないような学びと出会いがありました。
- ・それぞれの意見を参考に実行に移していきたい。
- ・時間配分が適切だったと思う。グループワークも非常に話しやすい雰囲気でした。
- ・プレストの時間が、更にアイデアを深める時間になって良かった。
- ・これほどの人たちがSDGsに向かっていこうとするパワーの強さを感じた。
- ・最近、ロジックに偏重しすぎていたので、原点回帰できた。とにかく楽しかった!
- ・発表会の進行が面白くて良かった。
- ・登壇者の皆さまのメッセージ性が強いことでとても引き込まれた!

人材育成プログラム協議会

【日 時】 2021年12月3日（金）15:00～17:00（第1回）

2022年3月2日（水）15:00～17:00（第2回）

【場 所】 オンライン（Webex Meetings）

【内 容】 事業を円滑に推進するために、協議会を設置し、委員による、2回の会合を実施した。

第1回は、事業概要の説明と広報に関する意見交換を行った。第2回は、事業結果報告と質疑応答を行い、今後の方向性について意見をいただいた。

委員名簿（敬省略）

県	分野	委員
愛媛	有識者	入江 賀子（愛媛大学社会共創学部准教授）
	企業	堀内 章（愛媛県中小企業家同友会求人教育委員会）
	金融機関	岡本 輝之（日本政策金融公庫国民生活事業本部四国創業支援センター所長）
	メディア	河野 淳（株）マチサポ代表取締役社長）
	フィールド	米田 順哉（（特非）えひめリソースセンター理事）
香川	有識者	古川 尚幸（香川大学経済学部教授）
	企業	竹内 一之（香川県中小企業家同友会環境経営委員会）
	金融機関	岡本 輝之（日本政策金融公庫同上）
	メディア	谷本 小百合（高松リビング新聞社編集長）
	フィールド	久米 紳介（うどんまると循環コンソーシアム事務局長）



第1回委員会で上がった委員からの意見（一部抜粋）

- ・効率的に進めるためにあるものを活用すること、専門家に幅広く呼び掛け、技術的な課題もアドバイスをもらう体制を取れると良い。
- ・参加者が課題を持っているか、いないかで大きく違う。「ビジネスプラン見える化BOOK」は課題が見つからないと書き進められない。研修入口の段階で課題を明確にしておいたほうが良い。
- ・社会人に的を絞った方が、短い期間で気づきが多い。



協議会の様子

第2回委員会で上がった委員からの意見（一部抜粋）

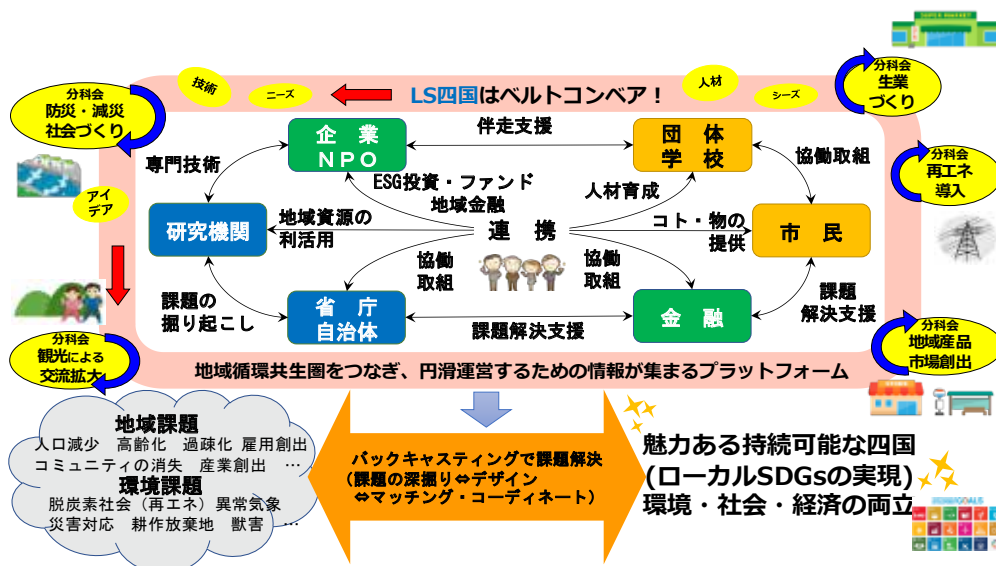
- ・いろいろな人たちをターゲットにツアーとして組み合わせていく提案があった。この企画に他の研修者の取組が便乗できる。
- ・「ビジネスプラン見える化BOOK」は、読んだだけでは理解が難しい。この事業を継続するのであれば、スケジュールの中で早い段階で説明ができれば良い。
- ・メディアに取り上げられやすい情報発信の仕方があるので検討すべき。
- ・発想としてマーケットインになっているべき。ニーズが本当にあるのかを深めるのも重要。

ビジョン

自然資源の恵み・つながりを活かし、伝え、地域・社会がそれぞれの特性を発揮しながら、連携して支え合いSDGsの目指す環境・社会・経済の調和を図りながら持続発展する活力あふれる四国地域の創造

行動指針

- 1) ローカルSDGsの考え方を実践する場づくりを進めます。
- 2) **ローカルSDGsの視点をもった創り手の発掘、育成を進めます。**
※科学的根拠に基づいた調査研究、知見を活用
- 3) イノベーションの導入やESGの視点を取り入れたビジネスの創出及び地域経済循環の向上を目指します。
- 4) 自然と人が共生する循環型社会を構築し、脱炭素化へのパラダイムシフトを進めます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



- ローカルSDGs四国 (LS四国) ホームページ

<https://ls459.net/>



問い合わせ先 (LS四国事務局)

- 環境省中国四国地方環境事務所四国事務所環境対策課
TEL: 087-811-7240
- 四国環境パートナーシップオフィス (四国EPO)
TEL: 087-816-2232
Eメール: info@ls459.net

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。